

JIA長野県クラブ 43

社団法人 日本建築家協会

2000. 7. 1

▼2000年度支部通常総会



▼長野県学生卒業設計コンクール2000入賞作品展



▼2000年度通常総会 新役員の紹介



◀記念講演会で講演する
建築家・武蔵工大教授 岩村和夫氏



JIAの「求心力」は何か

会長 松下重雄

この度、出澤潔前会長の後任として重責を担わせていただくことになりました。非力ですが一層努力し、クラブの発展と社会貢献に尽す覚悟です。どうか、新体制に惜みない御指導、御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

出澤前会長は、常に私達の先頭に立ち職能を通じて地域社会に貢献する必要性とその責任を一貫して訴えてこられました。穏やかで物静かな表情の奥に秘められた正義への強い意志と優れたバランス感覚に加え、緻密な気配りなどその指導力に尊敬の念を抱いていたのは私一人では無かった筈です。本当に有難うございました。

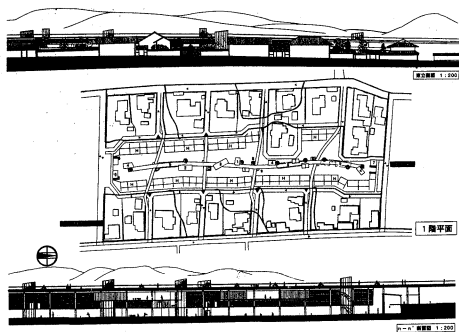
さて、今、私は後任者として非常に大きなプレッシャーを禁じ得ません。混迷の続く厳しい経済情勢下に、果して生き残って活動を続けられるだろうか？ 又、建築界をとりまく様々な変革に十分対応し社会の付託に応えられるだろうか？ そして、“寄らば大樹…”であるべきJIAは大丈夫なのか？ 会員がメリットと感じ「求心力」となる「JIA」とは、いったいどんな姿なのでしょうか？

設立時からJIAを拠りどころとしてきた私はJIA

に育てられました。ここに所属して活動してこなかったら、今頃はきっともっと卑屈な人生を送っていたに違いありません。宮本先生はじめ諸先輩から背中を押されるようにして大勢の全国の仲間と交流する内に、少しずつ勇気が湧き徐々に自信めいたものを感じられるようになってきました。(23年前、17年間の都会生活から帰郷した私は、それこそ建築について語り合える仲間すらなく、絶望状態が続いていました。今、細々ながらも胸を張って建築活動を続けられる喜びは何物にも代えられません。将にJIAに救われたと言えるでしょう)

そうです！ 各人が求心力となってJIAを動かして行けば良いのです。必ずメリットはついてきます。つまり、JIAは寄りかかるものではないということです。新体制の役員構成はそんな意味で若いメンバーを中心に据えました。思いっきり活動し育ってもらいたいからです。又、今回役員を交替された方々には、どうぞ叱咤激励と、暴走の手綱役をお願いする次第です。そして、冬眠を決め込んでおられた皆さん、全員が委員会で活動できるようにしましたので足がかりにして下さい。最後に生き残るのはアクティブメンバーかも知れませんよ！

大学の部

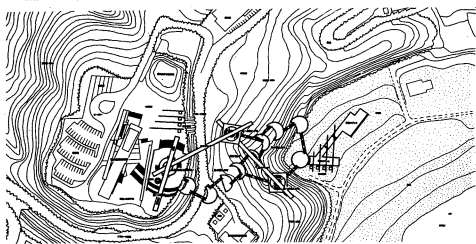


金賞

「MATSUSHIRO PROJECT」

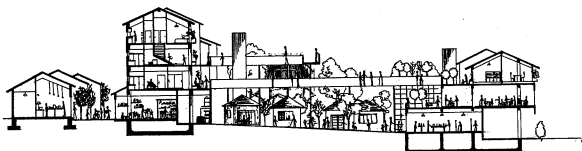
— 松代城下町の新しい住み方 —
南 謙 (信州大学工学部)

銀賞



「133.34.30.E-33.29.35.N」 — 桂浜造景計画 —
山崎 靖明 (信州大学工学部)

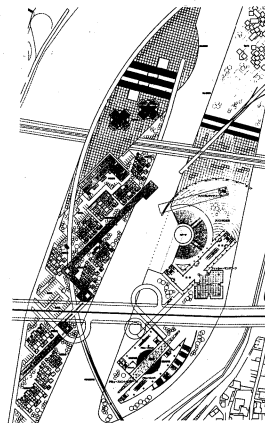
銅賞



「OLD/NEW」 — 記憶とともに生きるまち —
林 里穂 (信州大学工学部)

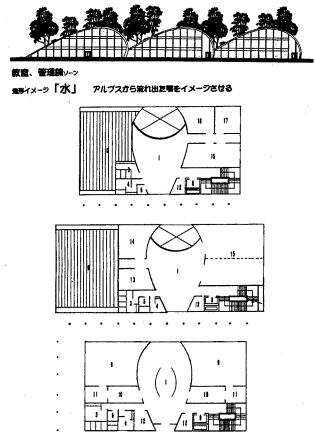
専門学校の部

金賞



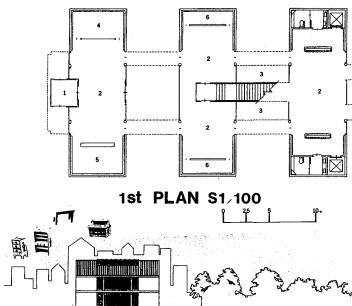
「3M2001」
— 水・緑・桃太郎 —
奥田貴子 佐藤梨永
清水千春 宮澤友也
(国際コンピュータ
ビジネス専門学校)

金賞



「信州芸術大学」
望月 義春
(長野美術専門学校)

銅賞



「おもちゃ博物館」
入江 公弘
小野田 満
酒井 信幸
松本 浩和
(国際コンピュータ
ビジネス専門学校)



通常総会記念講演会に参加して

伊藤 正明

伊藤構造計画工房

2000年度通常総会記念講演会は、講師に建築家岩村和夫氏をお迎えして「サステナブルな建築・都市の理念と形」との演題で行われた。

冒頭から、リサイクル工場での建築廃材の様子や、2050年頃の新築床面積は総施工床面積の10%以下となり、リフォームに重点が移るであろうとのショッキングなシュミレーション予測が紹介され、一つの建物が長く大事に使われる時代になるのだと思いつつ氏の話に引き込まれていった。

氏は現在の日本における建築が長く世代を超えて使い続けられる必要性を訴えていたが、使い続けられるためには耐力的なことのほかに美しさが重要なことを強調されていた。そして、そのことを「サステナブル」と呼んでいる。スライドでは日本も含め世界各地で現在も使われ続けている伝統構法による建築や、各地の風土に合いそこにある材料を使った存在感のある建築が紹介され、日本の現状を再認識できた。改めて建築は時代を経て使

い続けることで美しさを増し、その為の建築家の役割が重要になるであろうと実感した。また古くても味のある建物が壊されていく現実に自分の無力さを覚える一方、当クラブ内の建築家の方々が、新築の建物のみならず古い建物を生かす努力をされていることに心強さを覚えた。今回の講演は、建築を考える新たな視点を知らされ目の醒める思いだった。構造の立場でもこの視点を生かすように努力したい。



審査をふりかえって

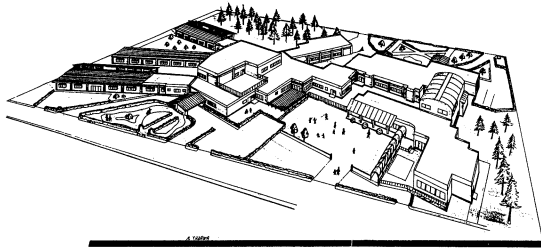
審査委員長 藤森 照信

コンクールも9回目を迎え、ミレニアムを記念してか一歩の前進があった。小さな前進と言うべきかもしれないが、コンクールへの参加者の輪が広がった。これまで、大学と高等学校の2つであったが、今回は専門学校が加わった。コンクールというものにはお祭りの性格があり、参加者の少ないのは淋しいが、専門学校の参入で、審査会場の光景はにぎわいを増した。

高校の部

金賞

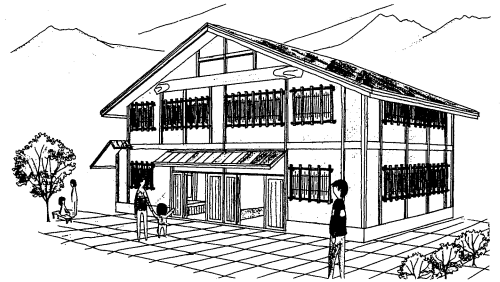
鳥瞰図



「特別養護老人ホーム
DAYサービス施設 “いいずら園”」
矢澤 真 (飯田長姫高校)

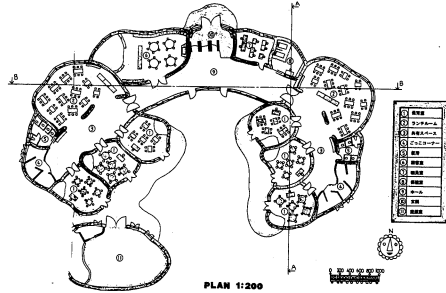
「KINDERGARTEN IN FOREST」
山田 真美 (池田工業高校)

銀賞

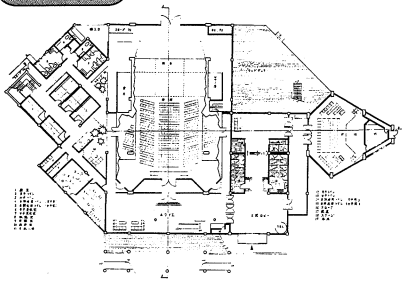


「伽羅線屋敷～からくりやしき～」
熊谷 千夏 (飯田長姫高校)

銀賞

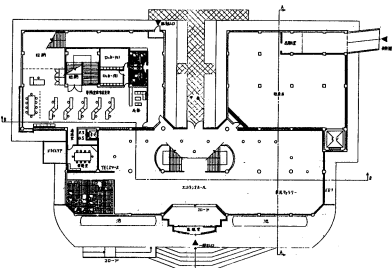


銅賞



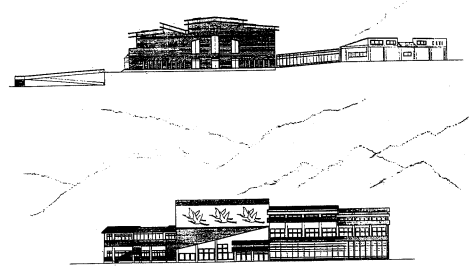
「市立文化ホール」
青木 利重 (長野工業高校)

銅賞



「県立美術館」
尾澤 将 克 (長野工業高校)

銅賞



「松ヶ丘小学校改築計画」
塩野入 広之 (長野工業高校)

まずは、新参加の専門学校の部から。

金賞は当初1作の予定だったが、奥田・佐藤・清水・宮澤グループ案と望月案が同点首位となり、両者を金賞とした。専門学校の応募は建築CAD学科と造形科建築デザインコースの2学科からあり、CAD学科からの2案については、建築設計の内容よりはCADによる図面表現の良し悪しに力点を置いて審査した。その結果、奥田・佐藤・清水・宮澤案が金賞となったのだが、この案は、図面表現だけでなく、建築設計としてもなかなかよくできていた。望月案は、大学という大規模建築と取り組んだ力作で、図面の表現も良い印象を与えた。ていねいな印象を審査員の全員が持った。

建築は昔も今も、図面で表現するしかないから(世界のどんなコンペでも図面により審査される)、図面にどのような表情を与えるかはきわめて大事で、若き日の丹下健三のコンペ図面の美しさと細心さは今に語り伝えられているほどである。デビュー作となった昭和17年のコンペ図面などはまるで墨絵を見るようだったという。

このようなことをわざわざ書いたのは、大学の部の諸案が念頭にあったからだ。ほとんどの案が、台紙に切り貼りした図面となっていた。これまでも少数あったが、

今回のように大勢を占めたのは初めてである。コンペであれば、切り貼り図面が受かることは絶対にない。整形手術のやりかけで出てきたような中途半端な印象を禁じえないからだ。若いうちから楽なやり方を選んではいけない。中途半端に上手なよりは、下手で実直な方がいい。

金賞の南案は、松代の城下町の再生をテーマにし、建物の裏側の庭と空地部分を使って新しい機能を加えようという案で、興味深いやり方にちがいないが、既存の歴史的建物や町並景観との関係に視覚的に難があったのが惜まれる。銀賞の山崎案は、桂浜の坂本竜馬記念館を拠点にしてそのデザインを図面に広げてゆくようなものであるが、坂本記念館はそれほどの作品であるのか、という疑問が審査員から出された。

高校の部は、ここ数年のレベルアップの勢いがまだ続いているのがうれしかった。金賞の矢澤案は、テーマも時宜にない、設計内容もよく考えられていたが、居室の一部が北向きに配置されており、老人にはまずい。高校の部は、とにかく平面計画の充実に取り組んでほしい。平面計画は今も昔も建築デザインの土台である。

クラブインサイド

学生卒業設計コンクール2000審査会

片倉隆幸

4月17日、長野市の山王共済会館で開催。大学、専門学校、高校各部門の入賞作品を決めた。応募は大学(信州大学)から7件、専門学校は2校から4件、高校は4校から12件。審査委員は昨年同様。今回より、新たに専門学校が加わり、質の向上と共に華やかさを増した。

第1回幹事会(新旧) 依田政司

4月17日、長野市の山王共済会館で開催。新しく幹事になられた7名が出席し、フレッシュな雰囲気の中議事が進行。会長挨拶・報告事項の後、新しい体制での委員会の構成・活動内容が説明され、各委員長が挨拶。続いて、5月16日開催予定の通常総会の内容とスケジュール・役割分担について協議・承認された。又、支部アーキテツガーデン実行委員に上村副会長を選任。

第2回新正副会長・委員長・賛助会長会

松下重雄

5月1日、松本市の上土ふれあいホールで開催。総会に先立ち、事業計画・収支予算(案)の再検討に加え、総会併催行事の担当等を確認。又、委員会新構成及び年間スケジュール(案)を検討し、第2回幹事会(5月16日)にはなるべく意見交換を行う。

第2回幹事会 渡辺一成

5月16日、長野市の山王共済会館で開催。クラブ報告、本部・支部報告のあと通常総会の進行、資料等の確認。新年度の委員会構成については委員長・委員(案)の検討。インターネット時代に鑑み情報特別委員会を新設する。新年度年間事業スケジュールの検討。

2000年度通常総会 川上恵一

5月16日、長野市の山王共済会館で開催。二期四年の出澤会長最後の仕事となり全ての議案が無事承認された。松下新会長以下の役員が紹介され、時代を先取りしたさらなる社会貢献をとの決意表明があった。続いて学生卒業設計コンクール2000の表彰式があり、その後武蔵工業大学教授の岩村和夫氏による記念講演会が催され「サステイナブルな建築・都市の理念と形」と題して、環境面から建築することの意味を話された。最後は来賓・学生も出席して懇親パーティが行われ、和やかなうちに締めくくられた。

クラブアウトサイド

アーキテツガーデン2000地域会検討会議

関邦則

3月27日開催。アーキテツガーデン銀座建築祭の開催に当り地域会としての参加方法について意見交換。各地域での開催の可能性などについて地域会で検討する。

第9回・1回支部総務委員会 久保隆夫

3月22日、4月18日開催。任期により、千原前委員長から中尾新委員長へ引継がれ、新年度の活動方針を検討。本年度は公益法人化、品確法への対応、財務問題などが課題となる。特に退会者対策が重要となる。

第1回支部役員会(新旧) 関邦則

4月12日開催。地域会に対し品確法に基づく紛争処理委員の推薦依頼あり。新役員構成承認。事業計画・予算案は大幅赤字となってしまい要検討。支部役員選出規定も今後の地域会新設への対応を盛り込むように検討。建築家資格制度に先立つ継続教育を新年度から試行し漸次義務化。公益法人問題は本部定款改正の方向。会としての意思決定や情報伝達の徹底化を望む声強い。

第2回支部会員委員会 久保田三代

5月30日開催。1名の入会と10名の退会審査。退会希望者に文章で慰留を行う。新春の集い、会員集会、新会員の集いの確認と今年のテーマを検討。会員資格問題について議論した。

第2回支部役員会 関邦則

5月24日開催。継続教育特別委員会・苦情対応委員会・情報化推進特別委員会を設置する。委員会構成承認。公益法人化に伴う定款改正について説明があった。

2000年度支部通常総会 関邦則

5月24日開催。出澤・松下・関出席。1999年度事業報告・決算と2000年度事業計画・予算を承認。出澤監査選任。西東京地域会設置申請承認。支部役員選出規定改正承認。公益法人化に伴う定款改正についてはあわてず慎重に検討すべきとの会場意見あり。会員懇談会では継続教育について大宇根弘司氏・米澤正己氏と近畿支部坂本克也氏が発表。会場意見多数あり。懇親会も盛會。

第2回支部業務委員会 関邦則

5月30日開催。川窪新委員長に変わっての開催。本部業務委員会・支部役員会・アーキテツガーデン実行委員会・東京都安全安心実施計画の報告。支部委員会のスタンスと担当内容について意見交換。次回に継続する。



編集人 依田政司
発行人 松下重雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303
作成 新建新聞社